

C-32 日本在来織布の研究(第1報)——甑島の葛布——

鹿児島大教育 小林孝子

目的　すでに古代の文献にもいくつかの衣料名が見出されるが、現在それらの実物に接することは困難である。合成繊維の開発その他、生活の近代化の促進につれて、民俗服飾は急速に滅亡の途上にあり、その保存・記録が望まれている。私は近年、日本在来織布(木綿が伝来し栽培される以前からすでに織成されていたもの)について調査・記録を行っているので、今回はその中の葛布について報告する。

方法　近年まで葛布を織っていた鹿児島県甑島の現地における紡織作業の撮影記録および現存の葛布・葛衣についての織の密度、色彩の測定など。

結果　葛布の紡織は現在北部九州や本州においても行なわれているので、その各地域で調査を行ない比較した結果、材料の採集・紡織の技法・織布の用途などにより、地域による類似や差異が認められた。今回は鹿児島県甑島の葛布を中心に報告する。